

梅の花のちるを見てよめる

村川堅固

散りぬとも香をたにのこせ梅の花たぐれて來鳴くうくひすもあり

阿蘇殘雪

峰はまたけえぬみ雪ののこれはや鹿の子まつらの阿その遠山

初聞鶯

市ちかく家居しをればらくひすの一聲たにもきくはめつらし

阿蘇殘雪

下山陸治

打なひくかすミの空に残りける雪ものどけき阿蘇のやまやま

餘寒

本田弘

風さえて春ともいはすしらゆきをまた吹きさるふ二月のろら

梅散風

ふく風にうち散らさる梅の花香をたにのこせはるの殘見に

賢こそあたりの人のみまろり玉へるを痛みて

死出の山關守もかあふさみし雲井の人のあはれてえゆく

鬼狩

吉丸一昌

夷ちをかくもやせましにけ迷ふ雪のうさきをどらふるかこと

きくまゝを

風たちて日もくれ又たる谷陰を月にうたひて行く人やたれ